

No. 1127

戦後30年

八月十五日がまためぐってきた。第二次大戦の戦火やんで三十年、今年もまた東京・九段の日本武道館では天皇・皇后両陛下遺族代表ら約七千人が参列して「全国戦没者追悼式」が行われた。

正午参列者全員が一分間の黙とうをささげたあと、天皇陛下のおことば

終戦以来ここに三十年、先の大戦において戦陣に散り、戦火にたおれた数多くの人々と、その遺族の上を思い、今も尚、胸の痛むのをおぼえる。ここに全国民と共に、世界の平和と我が国運の進展を祈り、心から追悼の意を表す。

賛否両論うずまく中、三木首相は「私人」の資格ながら、総理大臣として戦後初めて靖国神社に参拝、風化して行く戦後に波紋を投げた。

六価クロム禍

日本にまた一つ、大きな公害が発生した。

六価クロム。染料・顔料や酸化剤として使用される重クロム酸ソーダを作る過程にできる灰白色の固い金属。有毒。東京、江東区の日本化学工業による六価クロム鉍さい投棄は従業員の職業病や土壌汚染など、新たな社会不安をまきおこした埋め立ての進む江東区江戸川区のデルタ地帯。ある住民は「六価クロム、現在ですから六価クロムという言葉を使いますがね当時は何も知りませんでした。ただ草が生えないことだけは知っていました。自然と黄色い水が出てくる、そうすると池の魚が死んでしまう。」

大量の鉍さいは工場外の住宅地にも投棄されていた。学校の敷地にも鉍さいが使われており一部児童からは鼻に穴があくなど異常を訴えるものも出てきた。

今から16年も前に、六価クロムが人体に悪い影響を与えると指摘されながら、企業や行政の対策は無に等しかった。次々に広がる被害に事態を重視した東京都は8月14日、土壌学の専門家や公害局など関係各局を集めた全庁的な「六価クロム禍対策会議」を開いた。六価クロム問題が大きくなるにつれ、姿を消していた日本化工の棚橋社長らは、ついに記者会見に臨んだ。「このたび、過去において埋め立てていた六価クロムと社内の職業病で、多数の肺ガンの死者を出したことについては全面的な責任を感じている」

元、日化工の従業員で死亡した畑山文治さんの妻、隆子さんは「夫もクロムによって死んだにちがいない」と文治さんの解剖結果の再調査を依頼した。病院の側で亡き夫に線香をあげる隆子さん、文治さんはいつも「オレはクロムに殺される」と言い続けていたという。「墨東から公害をなくす区民の会」のミニ・デモが毎日繰り返される。この会によって告発された六価クロム禍。今、その恐るべき公害の全容が解明されようとしている。